

第3学年 道徳科学習指導案

令和5年11月22日(水)5校時

西原小学校3年2組計35名

授業者 友寄 由香

共同研究者 玉那覇あつ子

我如古真利江

1 主題名・教材名

主題名:「自分をささえてくれる人」 B 感謝

教材名:ぼく知らなかったよ(出典「小学どうとく ゆたかな心3年」光文書院)

2 主題設定の理由

(1)ねらいとする道徳的価値について(指導要領解説より)

本時で扱う内容項目「B 主として人とのかかわりに関すること」の「感謝」について、学習指導要領で学年段階ごとに次のように示されている。

第1学年及び 第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校 「思いやり、感謝」
家族など日ごろ世話になっている人々に感謝すること。	家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、感謝の気持ちを持って接すること。	日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支えあいや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。	思いやりの心を持って人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

感謝の気持ちは人が自分のためにしてくれている事柄に気付くこと、それはどのような思いでしてくれているのかを知ることによって芽生え、育まれる。このことから身近な人々から見えないところで日々の生活を支えてくれる人々まで、成長とともに、尊敬と感謝の念が広がっていくよう指導することが大切である。

中学年の段階においては、感謝する対象を家族など日ごろ世話になっている身近な人々に加え、日常の生活を支えている地域の人々や現在の生活を築いた高齢者などの先達へと広げるようにすることが求められる。指導に当たっては、自分の生活を支えてくれる人の思いを考え、その人たちの存在意義に対する理解を深め、尊敬と感謝の念をもって接することができるようにすることが大切である。

(2)児童の実態について

本時の内容に関する事前アンケートで、「日頃お世話になっている人は誰か」の質問に対して、お母さん(96%)、お父さん(71%)、先生(46%)、友だち(21%)などが多く挙げられた。少数意見としては、給食センターの人(9%)お店の人(9%)近所の人(6%)交通安全の立哨の人(6%)などが挙げられた。普段からよく接している家族や先生等にお世話になっている意識はあるが、それ以外の地域の人や学校の中でも勉強以外の事でお世話になっている方々の事にはあまり気づいていないことが分かった。

このように、家族などの身近な人にはお世話になっているという意識はあるが、その他の人に具体的に何をやってもらっているのか、どんな気持ちでやってもらっているのかも、児童の普段の会話からはわかっていないように感じられる。中学年の感謝の対象は、目の前の人に限らず、自分たちの生活を支えてくれている人たちなので、普段なかなかお世話に

なっていることに気づかない人々へ目を向けられるようになってほしい。

(3) 教材について

子どもたちは普段から接している家族や学校の先生などには助けられていると自覚はあるが、見えないところで支えてくれている人の存在には、これまでなかなか気づくことはなかったと考えられる。本教材では、自分の知らないところで仕事をする井上さんの存在を知り、井上さんの仕事と仕事に込められた思いに気づくことで、たくさんの人に支えられていることを自覚させられる教材でもある。

子どもたちも身近な人だけでなく、多くの人が自分たちの幸せを願って支えていることを知ることで、自分も感謝の気持ちを持って人の役に立ちたいという心情を持つことができるようになる。

(4) 指導観

本時の指導にあたっては、まず、事前読みを取り入れることで、登場人物それぞれの状況や再度お礼を言いたくなった主人公の心情の変化を捉えやすくし、本時ではさまざまな視点で考えが出せるようにしたい。

次に導入で、アンケート結果を提示することで、本時の学習や教材への興味関心へとつなげていきたい。

展開では、「僕はなぜ、もう一度お礼を言いたくなったのか」を問い、支えている人の思い考えることを通して、ただ仕事としてやっているのではない事に気づかせたい。さらに、展開の後半では、普段、自分たちがお世話になっている方の話を聞く場面を設け、子ども達にその人の仕事や仕事に対する思いに気づかせ、支えられていることを知り、それらの人々に尊敬と感謝の気持ちを持つ児童になってほしい。

3 校内研との関連

テーマ：自己肯定感を高め、未来に向かう児童の育成
～地域との関わりの中で自己を見つめる道徳教育を通して～

今年度の3学年の重点課題として

○目標をもって粘り強くやり遂げようとする。

○礼儀の大切さを知り、真心をもって接する。

が挙げられる。発達段階においても、自分とその周りの人たちとの関わり方に課題があるため、道徳の重点目標を以下にする。

A 主として自分自身に関すること「希望と勇気、努力と強い意志」

B 主として人との関わりに関すること「礼儀」

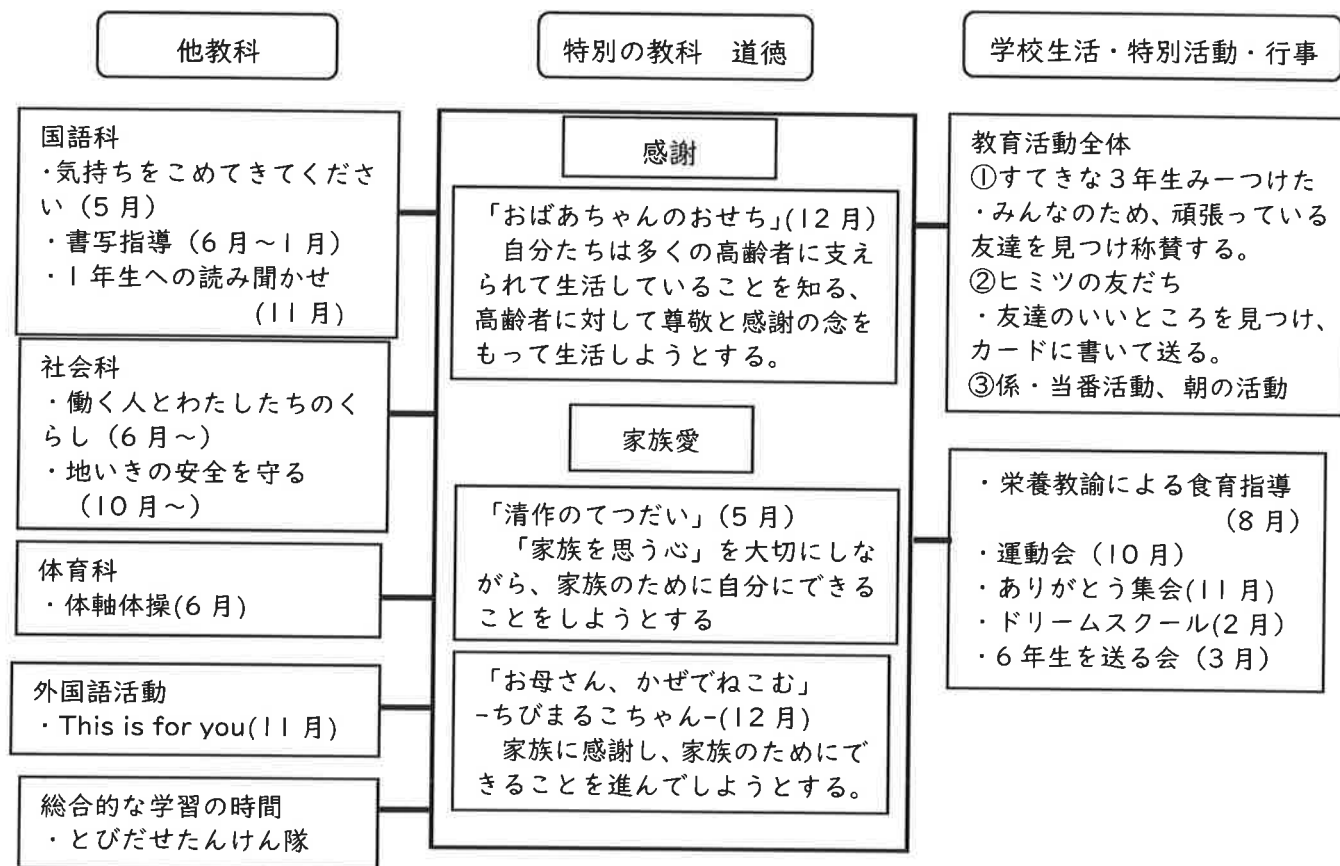
これらの内容項目を踏まえ、3学年は校内研テーマを意識し、学校教育活動の様々な場面で、子どもたちの自己肯定感を高める取り組みを行っているところである。

普段の子どもたちの活動に着目し、すてきな行動を掲示したり、お互いのいいところをカードに書いたりする活動をすることで、友達や自分のよさに気づかせ、自己肯定感を高めようとする取り組みを継続している。また、学校生活の諸活動において、個人やグループでのめあてを持たせ、目標達成に向けて努力する過程を大切にし、ふり返りができるようにしている。また、朝の活動において、自主的にあいさつ運動に参加し、気持ちのよいあいさつをすることのよさを感じ実践できる子が増えてきている。

さらに、地域との関わりとして、国語の書写では、書道教室の先生を招いて、書写指導をしていただいている。体育では、保護者の方を講師に招いて「体軸体操」に取り組んだ。また、総合的な学習の時間では、「とびだせたんけん隊」というテーマのもと、西原町のよさを見つけるために、個人でテーマを決め、夏休みに親子で調べ学習に取り組んでいる。(西原町の特産物、歴史、行事、施設など) 今後、まとめたものを学級で交流し、西原町についての知識を深めていきたい。

今回の授業では、別葉の計画にある内容項目「感謝」を行う。小学校指導要領解説「特別な教科道徳」の「感謝」には、「自分の生活を支えてくれる人の思いを考え、その人たちの存在意義に対する理解を深め、尊敬と感謝の念をもって接することができるようにすること」とある。これからも周りの人や地域に目を向け、たくさんの関わりを知り、自分は大切にされている存在であることに気づかせたい。

他の教育活動等との関連～本時の内容項目「感謝」に関連して～

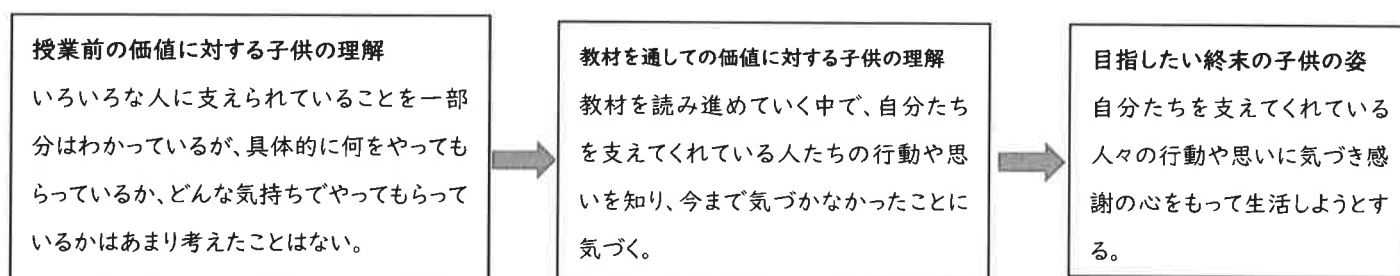


4 本時の指導

(1)本時のねらい

自分はいろいろな人に支えられていることを知り、それらの人々に尊敬と感謝の念をもって生活しようとする態度を育む。

(2)ねらいとする価値への追及の見通し



(3) 本時の展開

段階	学習活動	主な発問□基本・◎中心・○補助 ●児童の予想される反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入 5分	1 自分たちの生活を支えている人（日ごろお世話になっている人）についてのアンケート結果を表示する。	□私たちを支えている人はどんな人がいるかアンケート結果を見てみましょう。 ●家族、先生、友だち、立哨の人、お店の人、…。 私たちの生活を支えてくれている人について考えよう。	◆アンケート結果より 「日ごろからお世話になっている人」を思い出させる。
展開 30分	2 教材「ぼく知らなかったよ」を読み、話し合う。 3 自分たちがお世話になっている人について考え、その人の行動や思いについて改めて考えてみる。 4 ゲストティーチャーが登場する。	□ぼくは何を知らなかったのですか。 (井上さんはどんな仕事をしているのか。どんな思いでやっているのか。) ●井上さんがロッカーの修理だけでなく、水かけ、ペンキ塗り、そうじ、タイル替えなどをしていたこと。 ●みんなが安全に気持ちよく勉強できるように…。 ◎ぼくはなぜもう一度お礼を言いたくなったのですか。 ●ぼくたちのためにたくさんのことをやっていたから。ぼくたちのことをすごく考えていたから。 ○仕事としてやっている井上さんにお礼する必要はないのでは？ 当たり前だからお礼はいらないのでは？ ○1回目の「ありがとう」と2回目の「ありがとう」では何が違うのですか。 ●今まで知らなかった井上さんの行動や思いを知ってありがたく思ったから。 ○「ぼく知らなかったよ」と思うことはありますか。 ●もしかしたら○○さんは、こんな思いでやっていたのかな？ ●私が気づかないこともやってくれているのかもしれない…。 ○2回目の「ありがとう」を言いたくなった人はいますか。 ○この学校で、井上さんのようなことをやってくれている方はいますか？ ●先生かな？教頭先生かな？○○先生？ ○○先生（ゲストティーチャー）…もし出ない場合、「誰かに聞いてみよう」と言ってゲストティーチャーの事を話してもらう。 ○ちょうど○○先生がいらっしゃるなのでお話を聞いてみましょう。 ○私たちのためにしていることはどんなことだと思う？ ●電球替え、朝に校門前でみんなの安全確認…。 ○自分の仕事内容でもないのにやっているようです。どうしてですか？ ○○○先生「お礼なんかいらないよ」と言っているけどどう？ ○仕事だから私たちはありがたいって気持ちなんかいらないよね。 ●そんなことない。感謝の気持ちは大事。	◆本文の内容を十分に把握できるように前もって読ませておく。 ◆ただ仕事としてやっているのではない事に気づかせる。 ◆支えてくれている人の行動や思いをいくつか紹介する。 ◆写真などを掲示し他にも色々な人がいることに気づかせる。

終末 10分	4 ふりかえり 今日の学習のふりかえりを書く。	○今日の授業のふりかえりをしましょう。 ●自分が知っていること以外にも、たくさんお世話になっているのかもしれないと気づいた。 ●感謝の気持ちを伝えたい…。 ●お世話になっている人をよく見てみようと思った…。	◇自分たちを支えてくれている人々の行動や思いに感動し、感謝する心をもって生活していこうとしている。
-----------	----------------------------	---	---

(4) 評価

①指導の評価

自分たちの生活を支えてくれている人の行動や思いを気づかせたり、感謝の気持ちを持って生活しようとする意識を持たせたりすることができたか。

②児童の評価

自分たちを支えてくれている人々の行動や思いに気づき、自分が感じた感謝の気持ちを改めて考えている。

板書計画

11月22日 ぼく知らなかったよ
わたしたちの生活をささえてくれている人

お母さん
お父さん
おばあちゃん
友だち
先生

ぼく

1回目の
ありがとう

ぼくが知らなかったこと

- ロッカーなおし
- 花だんの水かけ
- ペンキぬり
- そうじ
- 花だんの草とり、花植え
- タイル

ありがとう

挿絵1

挿絵2

挿絵3

挿絵4

2回目の
ありがとう

仕事だから
あたり前のこと？

井上さん

心や思い
を知った
から

ただ仕事として
やっているわけじゃない

1回目と2回目のありがとうのちがいは？

- 井上さんの思いを知ったから
- 仕事以上のことをやっている
- 自分たちのことをこんなに考えている

ぼくはなぜもう一度お礼を
言いたくなったの？

- 井上さんがぼくたちのために
たくさんのことをしてくれて
いたから
- みんなの安全を考えてくれた
- ぼくたちのために・・・



自分を大切にしてくれる人

みんなの生活を大切にしてくれている人は、だれでもいなか。

24

ぼく知らなかつたよ

(あれ?) たつくんは、そうじの時間、そうじロッカーのとびらがはずれか
かって、きちんとしまらなくなっていることに気がつきました。

つぎの日のそうじの時間、たつくんは
そうじロッカーのとびらがきちんとしまる
ようになっていることにおどろきました。

(あれ? 先生が直してくれたのかな?)
気になったたつくんは、先生に聞いてみ
ることにしました。

「先生、そうじロッカーのとびら、直してくれたんですか。」



5

すると、先生が、

「先生では直せなかったから、ようむの井上さんに直してもらったのよ。だ
から、井上さんにこんどおれいを言つてね。」
と、おっしゃいました。

そのつぎの日、たつくんは友だちのしんくんと
サッカーをするために、朝早く学校に来ました。

「あれ、こうていにだれがいるよ。」

しんくんが、言いました。

「竹ぼうきでそうじをしてる……。」

あつ、井上さんだ。おれいを言わなくちゃ。」

たつくんは、井上さんの方にかけていきました。

「井上さん、三年一組のそうじロッカーを
直してくれて、ありがとうございます。」

「まあ、わざわざありがとう。二人とも、朝早く
に学校に来てえらいね。サッカーのれんしゅう、がんばつてね。」
井上さんは、そうじをしながらえがおでこたえてくれました。



5

10

先生が直してくれた
わけじゃないんだね。



15



みんなの生活は、だれに、どのように
たえられているのか、話し合ってみよう。



みんなの生活をきいてくれている
人に、かんしゃの手紙を書きましよう。



「ええっ、それは気づきませんでした。井上さんってたくさんのことをして
くれているんですね。」

「みんなが、あんぜんに気もちよくべんきようできるように、あぶないところ
はないかな、こわれているところはないかなと思いながら、学校中を
見ているからね。」

井上さんはそう教えてくれました。

「もう三年生だけど、ぼく、ぜんぜん知らな
かったよ。井上さんってすごいなあ。ぼく
たちの学校を、今までずっと、まもってく
れていたんですね。」

たっくんはもう一ど、井上さんにおれいを
言いたくなりました。

● 藤原 信子 作

(いったい、井上さんはどんな
しごとをしているんだろう?)
たっくんは、井上さんにたず
ねてみることにしました。

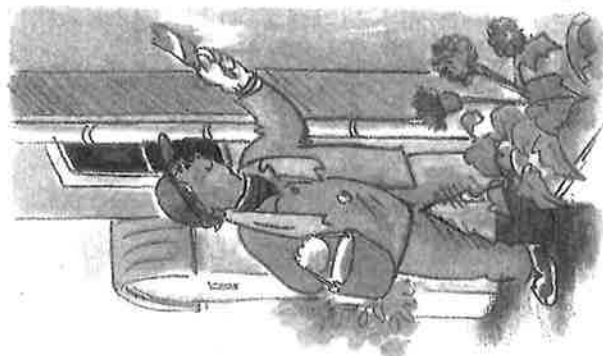
「井上さん、井上さんはどんな
おしごとをしているんですか。」

「わたしは、学校にかんする

いろいろなしごとをしているのよ。おとといは、花だんの草をとって、
新しいお花をうえたわ。たっくんは気づいてくれた？」

「あ、そういえば！」

「きのうは、わたりろうかのタイルをかえたの。少しへこんでるところが
あって、そこにつまづいてけがをしてはあぶないと思って。」



この日をきっかけに、たっくんは井上さんが気になってきました。そして、
よく話をするようになりました。

休み時間やほか後に見かけると、井上さんは、花だんの花に水をあげて
いたり、ペンキをぬっていたり、学校のそうじをしていたり、いろいろなこ
とをしています。

5

10

15



井上さんは何をしてくれて
いるのでしょうか。



たっくんは、どうして
もう一どおれいを
言いたくなったのかな。

5

10